

新除草・調節剤

トリブニール除草剤

(取扱メーカー) 日本特殊農薬製造株式会社

対象作物：タマネギ

性状・作用特性：本剤は低毒性の尿素系除草剤で 1,3-dimethyl-3(2-benzothiazol-yl)urea 70% を含有する水和剤である。

本剤は根部ばかりでなく茎葉からも吸収され、光合成阻害により除草効果を示す。

タマネギには定植後土壌処理、麦類には播種後土壌処理、生育初期茎葉処理で選択的に除草効果を示す。

本剤は各種広葉雑草、スベリヒユ、タデ、ハコベ、タネツケバナ及び禾本科とくに冬作雑草

スズメノカタビラ、スズメノテッポウなどに発芽前土壌処理、発芽後茎葉処理で高い効果を表わす。

本剤の土壌中の移動性は小さく、降雨の影響はうけにくい。

本剤の残効性は、土壌処理の場合 40 日程度とみられている。

毒性：急性経口毒性は 1,000 mg/Kg 以上(マウス)、2,500 mg/Kg 以上(ラット) 経皮毒性は 1,000 mg/Kg 以上、短期毒性試験でも異常を認めない。魚毒性についても低く A 類である。

使用方法：タマネギ(寒地)定植後 20～40 g/アールの全面雑草処理。暖地タマネギの適用性についての地域拡大が考えられている。

編集後記

今年は丑年：古くから人間社会に関係の深い動物を象徴して十二支が考えられたものと思われるが、牛の農業に対する貢献度はとくに高い。

ところで、農業の作物に対する残留量の牛に対する影響が、BHC を起点として種々問題になり、これらの試験研究の発表が各誌をにぎわしている。片や、ワラビの牛に対する影響として、汎骨随瘍があり、これを防除するのにワラビ退治が酪農家の間より切実に要望され、これに最適の薬剤として、アシュラム(アージラン液剤)が実用化、登録の運びとなった。したがって、酪農家にとっては、農業である除草剤に対し、認識をあらためるに違いない。

今後、各種農薬の開発が進むにつれ、人畜に有害な農薬は淘汰され、人間社会に有益な農

薬が高く評価されて普及してゆくものと思われる。このような観点から、農業業界を眺めると、農業開発に対する意欲は、今後益々燃えさかるであろう。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町 26 番地
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和 48 年 1 月 発行

第 6 巻第 10 号

¥90 (送料 50)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢 長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都港区芝愛宕町 1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388 番